

協働教育実践現場訪問

「東和の秋まつり」での実践販売

～「起業教育」を通しての総合的な学習の時間の取組～

登米市立東和中学校

1 はじめに

登米市立東和中学校では、平成17年から3年間、「みやぎらしい協働教育推進事業」の一環として、宮城県教育委員会の委託を受け ※1 起業教育推進事業を実施しました。委託終了後も、起業教育を教育計画の中に位置づけ、※2 登米市東和地区学校支援本部の協力をいただきながら、2年生の総合的な学習の時間の一環として取り組んでいます。本年度は「職場体験学習」と関連させながら学習を進めてきました。今年で6回を数える「東和の秋まつり」での東和中学校の販売活動は、今ではすっかり恒例となり、会場には多くの住民が訪れます。

※1 起業教育推進事業

宮城県教育委員会が重点施策として取り組む「地域社会と学校教育との協働の推進」を図るために実施した「みやぎらしい協働教育推進事業」の一環として実施された。平成17年度から3ヶ年にわたって県が委託し、県内7市町7中学校で実施された。社会における経済活動を教材とし、地域社会と学校が協働して進める体験活動である。キャリア・職業教育の一環として有効な学びの手法であり、起業教育研究会という組織が協働の取組を支える。

※2 登米市東和地区学校支援地域本部

東和中学校区の小中学校を支援するために、学校が必要とする活動について地域の方々をボランティアとして派遣する組織で、いわば地域につくられた学校の応援団として学校を支援している。子どもたちの登下校時の見守りやさまざまな教育活動の支援などを行っている。

2 実施日 平成22年11月 6日(土)

3 会場 東和総合支所西側 特設会場

4 取組の概要

2年生が総合的な学習の時間の一環として、学年全体で9の会社(出店のためのグループ)を立ち上げ、身近な生活の中にある材料や地域の素材を生かした商品を開発してきました。生徒たちは自分たちのアイデアに加え、地域の方々の助言や指導を受けながら熱心に取り組んできました。

その結果、手芸用品や雑貨、木工芸品といった商品をはじめ、食品の販売といった出店がありました。販売会場となった「東和の秋祭り」は、多くの出店やステージ発表などもあり多くの人たちが訪れます。地域のイベントに中学生が参加することで、秋祭りは大いに盛り上がり多くの人でにぎわいます。中学生の参加が地域作りにも多大な貢献をしています。子どもたちにとっても、今後の進路選択を含め地域の一員として活動し、また活躍する貴重な場となっています。

5 東和中学校の販売会場を訪問して

「東和の秋祭り」会場は、たくさんの方々でいっぱいでした。東和中学校のテントの前には、開店時間前からすでにたくさんの人たちが集まりたいへんな賑わいぶりでした。生徒も生き生きとした表情で一人一人がそれぞれ役割分担をしながら活発に活動していました。多感な時期の子どもたちにとって、地域の方々と実際に触れ合うことは非常に大切な体験であると思えました。

学校と地域が協働しあうことで、子どもたちはもちろんのこと、地域にとってもさまざまなメリットが生まれる様子を見ることができました。販売に至るまでの事前の取組、実際の販売活動、そして、事後の取組と学習のねらいをふまえた教育活動プログラムとして協働教育が実践されていました。

【活動の様子】



好天に恵まれ、「東和の秋まつり」が盛大に開催されました。



会場には東和中学校の販売ブースが設置されました。



東和中学校からは、全部で9つの店が出店しました。



「東和亭」、「うまいもん屋」、「門間商店」…などユニークな店がいっぱいです。



それぞれの店ごとに、工夫された様々な商品が販売されました。



みんなで協力しながら販売活動を行います。



お客さんに喜んでもらうための商品開発も大事な学習です。



「お金を得ること」の苦労やたいへんさ、商品が売れたときの喜びも味わいました。